

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成22年10月25日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4670103318号
法人名	医療法人 上原クリニック
事業所名	グループホームあかね
所在地	鹿児島県鹿児島市山田町73番地1 (電話) 099-275-8008
自己評価作成日	平成22年7月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kagoshima-kaigonet.com/">http://www.kagoshima-kaigonet.com/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成22年8月18日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・健康管理が充実している。(1回/月の定期回診、緊急時の医療連携)
- ・自家農園では季節の野菜、果物が収穫でき、食卓を賑わせている。いちご狩りやいも掘り等園外活動に行事として取り入れている。
- ・地域の人達の交流を大切にしている。  
(誕生会、クリスマス会への慰問、夏祭り、餅つき大会、そば作り他)

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鹿児島市南部の住宅街にあり、小学校、中学校、交番、ファミリーレストラン、スーパーなど、生活環境に恵まれているホームである。法人の医療機関に併設されているが、外観は民家のような佇まいで、訪ねやすい雰囲気ホームである。法人は長年、地域に根ざした医療、福祉に取り組んでおり、法人全体が地域の一員として地元を受け入れられている。行事の手伝いや災害時など、地域の協力が得られるような体制が構築されており、まさに地域密着型のホームとなっている。また、校区の小中学校の教員の研修先としての受け入れや、小中学生の体験学習先にもなっており、子ども達との交流は利用者の楽しみにもなっている。校区の文化祭には利用者全員で作品を作り、毎年出展して見学に出かけている。隣接のデイサービスでの催し物の見学にも出かけ、デイサービス利用の地域の方々との交流の場となっている。家族会も充実しており、年1回ではあるが、全家族が参加して食事会を兼ねた交流会も行っている。他にも家族が参加する花見、昼食会、夏祭り、ソーメン流し、敬老会、クリスマス会などがあり、利用者と家族の絆を大切にしながら共に本人を支えていく関係を築いている。職員の離職も少なく、職員間のコミュニケーションが図られ、利用者、家族との信頼関係も構築されて、質の高いサービスが提供されているグループホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念の意味を理解共有し、日常の介護、実践に繋げている	地域密着型サービスとしての意義を踏まえた理念を、職員全員で話し合っ作成している。玄関、ホールに掲示して重要事項説明書にも明記している。職員は常に理念を確認し、理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。理念の他に目標を掲げることも職員全員で検討している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会の行事や校区文化祭等への参加を通して地域の人達との交流を図っている	法人自体が地域に根ざした地域医療、地域福祉を担っており、地域との関わりが密である。グランドゴルフ大会、夏祭り、餅つき大会など地域の方々の協力を得ながら交流の機会をつくっている。また、校区の文化祭には利用者が作った作品を出展し、町内会の清掃活動にもできるだけ参加している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	研修生受け入れ ・ヘルパー1. 2級課程 ・北中学校体験学習 ・中山小学校6年「みのりの時間」学習 ・教員10年経験者研修他		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回行政関係者（地域包括支援センター）をメンバーに入れ会議を行いその中での意見、要望等は職員会議で話し合いサービスの向上に活かしている	町内会長、民生委員、婦人会会長、地域住民、家族、職員、行政などの参加を得て2ヵ月に1回開催している。地域の高齢者情報、相談などもあり、認知症対応型共同生活介護サービスの事業所としての助言や、認知症についてのミニ勉強会を行うなど地域貢献にも活かしている。家族会時に運営推進会議の報告も行っている。	

鹿児島県 グループホーム あかね 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>地域包括支援センター主催のケア会議や、GH主催の研修会等で意見交換を行い連携、協力体制をえている</p>	<p>市の介護相談員の受け入れや日頃より相談などで連携を図り、協力関係を築いている。また、校区の小学校の教職員研修の受け入れもしている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>日中、玄関、ホール入口は開錠しており、誰でも気軽に出入りできるようになっている。鼻くうを必要とする入居者様に対しては、注入時のみ、家族への説明、同意の基ミトンを使用している</p>	<p>外出傾向の利用者については、職員の見守りと連携で日中は施錠などせず安全で自由な暮らしを支援している。身体拘束廃止委員会も設置しており、職員会議の中で勉強会も設けて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>定期の勉強会に法人内研修や外部研修への参加で理解を深め、防止徹底を図っている</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>勉強会やリーフレット、文献等で知識、理解を深める</p>		

鹿児島県 グループホーム あかね 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の読み合わせを行い家族の不安や疑問な事柄を十分に説明し、納得を得る様にしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置すると共に、家族来訪時には意見、要望、苦情を聞く姿勢を心がけている。それらは家族会、運営推進会議、苦情相談窓口などで表せる機会を設けている。貴重な意見として運営に反映させている	面会を兼ねて利用料金の支払いを窓口持参してもらっており、定期的な状況報告を行っている。また、年1回全家族が参加しての家族会で意見交換を行っており、家族より励ましのことばや感謝のことばをもらおうと職員も励みになり、業務への意欲にもつながっている。他にも家族が参加するレクリエーションが多数あり、職員は家族の意見、要望を引き出すように努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、毎日の申し送りミーティング時に機会を設けている。出される意見、提案は常に前向きに取り上げ反映に繋げている	職員間で共有すべき内容については朝の申し送りを利用して利用者の情報の共有を図っている。また、入居の際は事前に職員に情報を提供し、サービス内容について意見を聞いている。レクリエーションは職員が交代で担当しており、職員の意見、提案が反映されている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務年数、資格取得等で準職員から職員への昇格の道が確保されている		

鹿児島県 グループホーム あかね 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修、勉強会、資格取得の為の講習会等、シフト調整の中で機会の確保を行っている。 法人内研修計画を立て、勉強会を実施している</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者、職員は谷山地区GH協議会の勉強会（1/月）に参加して、交流の機会を持っている。 管理者会議での情報交換をサービス向上に繋げている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所を決める前には、家族だけでなく、本人にも見学に来ていただき、スタッフとも面識を持ち、安心してもらえるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを十分に受け止め話を聞くことで、信頼関係を築けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅ケアマネジャーと連携し必要に応じたサービスの提案やサービス提供機関の紹介等をする		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全職員が共に暮らす家族という意識を持ち、お互いに支え合う生活を築いている		

鹿児島県 グループホーム あかね 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを共有し、家族と同じ思い、気持ちを込めて共に支えていける関係を築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた場所や友人宅への訪問を外出先に取り入れたり面会の声かけを家族を通じて行っている	自宅訪問や友人宅の訪問、また、利用者の自宅庭で花見を楽しむこともある。行きつけの美容院の利用や近所の大型スーパーへの買い物などなじみの人や場所との関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション、作業等、皆で楽しく過ごす場面を通して、利用者同志の係わりを円滑にできるよう努めている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に様子を伺い、本人、家族との繋がりを大切にしている 死亡退所された家族への行事への招待（夏祭り等）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活の中で、本人の何げない言葉や行動、表情を通して、意向の把握に努めている 選択肢を本人にしてもらうよう努めている	ことばで自分の意思を表せる利用者も多く、基本的に本人の決定を尊重している。また、困難な場合は会話の中から思いや意向を把握し、本人本位に検討している。一方的な決定はせず、本人の思いを大切に自己決定できるような支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から聞きとると共にアセスメントツール（センター方式）を家族も一緒に取り組み把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の暮らしの中での変化を見過ぎさないようにしている（認知症の進行など）		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いを主に、家族の意見、要望を取り入れた自分らしい、より質の高い生活を送れるような、ケアプラン、モニタリングをスタッフと共に作成している	自立を妨げないような支援内容と本人、家族の思いや希望、職員の意見など反映した本人本位の介護計画を作成している。楽しみやメリハリのある生活を課題にしている利用者もおり、歌をうたうとか、できる仕事をしてもらうなど具体化したサービス内容を作成している。3ヵ月ごとに見直しを行って現状に即した介護計画を作成している。	

鹿児島県 グループホーム あかね 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った個別記録の中で全職員が個々の状況を把握、共有しながらケアプランの実践、見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体医療機関との、24時間健康管理、医療活用等医療連携体制が充実している。他病院受診への移送支援等家族の状況に応じた柔軟な対応も行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の婦人会・ボランティア老人会等、情報交換、交流の機会を設けながら、地域の中での暮らしを支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医を基本としているが、ほとんどの入居者様は、母体病院をそれとし、定期的回診、緊急時の対応など適切安心な医療支援がなされている	本人、家族の状況に応じて受診の支援を行っている。家族には状況に応じて面会時や都度報告している。家族が連れていく際は法人の医師の情報提供表を持たせ、かかりつけ医との連携を図っている。	

鹿児島県 グループホーム あかね 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者との日常生活の中での会話や、入浴時で発見した異常等はすぐに看護師に連絡し、指示をもらったり、受信看護できるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中の情報交換は密に行い適切な治療が行われ、早期退院できるよう家族と共に努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化した場合のホームの方針を家族に説明している。母体病院、ホーム職員、家族と連携し終末の支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けたホームの指針を作成して重要事項説明書と共に入居時に説明し、同意をもらっている。また利用者の身体状況により、都度話し合いをもって意思確認を行っている。これまでに看取りの経験があり、家族、職員、医療機関との連携でチームとして支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得、救急救命法、AEDの取り扱いの研修を定期的に行い、実践対応に備えている		

鹿児島県 グループホーム あかね 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災等に対しての避難訓練や消火器の取扱い等の訓練を定期的行事に取り入れて行っている</p>	<p>年3回、避難訓練を実施している。地域の参加もあり、協力体制が話し合われている。また、同敷地内の法人の施設などとも協力体制を築いている。避難手順や通報手順など、確認しながら、実際の場면을想定した訓練も実施している。今年度は地震、水害などさまざまな場면을想定しての訓練も計画している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内研修での勉強を重ね職員 の意識向上を図っている 利用者に対して常に尊厳ある対 応を心がけている	個々に合った声かけや対応を心がけ ている。法人内研修や毎月の勉強会 でも総合的に接遇、プライバシーな どを取り上げて職員の資質の向上に 向けて取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表 したり、自己決定できるように働きかけ ている	家族や本人の思いを読み取るこ とができるよう、日頃から会話 の中で働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切 にし、その日をどのように過ごしたい か、希望にそって支援している	個々の性格、ペースを把握しそ の日の気分を感じ取りながら本 人本位の暮らしを優先する生活 を支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれが できるよう支援している	定期的に訪問カットを利用した りメイクボランティアの訪問、 外出時のお化粧品等、身だしな みに気を配った支援をしている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	毎食の下準備、味付け、盛り付 け、後片付けを一緒に行い、同 じ食事を共にいただき、食事が 何よりの楽しみの一つになっ ている	野菜の下ごしらえ、片づけ、食器洗 いなど個々の力量に応じて職員と共 に行っている。家庭菜園でできた野菜 の収穫を楽しんだり、ときには食 べたいもののアンケートを取って 献立に取り入れたりしている。ド ライブを兼ねてファミリーレスト ランなどで外食を楽しむこと もある。	

鹿児島県 グループホーム あかね 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導を受けながら献立を作り個々の栄養摂取量、水分量等、毎日の記録で管理チェックしている（1月の体重測定）		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを徹底、習慣とし、口腔ケアの勉強会を行い意識向上に繋げている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の行動、サインを読み取りトイレ誘導し、トイレでの排泄に繋げている。チェック表から排泄パターンを活かしたトイレ誘導を行っている	個々の身体状況に応じた排せつの支援と基本的にはトイレでの排せつを目標におむつ使用はしない方針で排せつの自立を支援している。個々の排せつパターンを把握して声かけ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく薬を使用せず食物での工夫を凝らしたメニュー作りに配慮し、便秘予防に取り組んでいる		

鹿児島県 グループホーム あかね 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	身体状況、その時々々のタイミングに合わせた入浴を行っている。入浴嫌いな人には楽しみながら入ってもらうことの工夫をしている	基本的には週3回の入浴の支援を行っている。また、希望に応じて毎日の入浴も可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活歴を尊重し個々の習慣に応じた日常生活が過ごせるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬による身体の状態、変化を観察、報告し、適切な服薬がなされるよう支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に合った好きな作業や楽しみの中でそれぞれが役割を持ち張り合いのある生活が送られるよう支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候、職員数等、タイミングが合えば極力外出の機会を作っている 家族にも、常に外出の声かけを行い、協力してもらっている (外食、墓参り、ショッピング)	日常的には散歩、買い物同行などで戸外に出かけられるように支援している。また、外食を兼ねた外出の機会を設け、利用者の楽しみと気分転換を図っている。他にも年間の計画に花見や初詣、ソーメン流し、校区の夏祭りや文化祭見学など外出の支援を行っている。	

鹿児島県 グループホーム あかね 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理の可能な利用者様と買い物に行き、自分の好きな物を自由に購入できる機会を作っている</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>個々の希望があれば、いつでも電話をかけたり取り次いだり、家族や親しい人と連絡が取れるよう支援している</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>視覚に入る場所に花や緑を飾り季節感を感じてもらえるようにし、天気の良い日は、窓を開放し、外気浴を肌で感じられるように心がけている</p>	<p>共用空間は和室のコーナーもあり落ち着いた雰囲気がある。共用空間のスペースで食事のテーブルと、ソファと畳部分のくつろぎのコーナーが分かれており、生活にメリハリができるように配慮されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>日当たりの良い窓際にソファを配置し、入居者様同士の交流を楽しめる場になっている</p>		

鹿児島県 グループホーム あかね 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族からのプレゼントや、職員手作りのカード、愛用の置物や、家族の写真などが飾られ落ち着いた部屋作りがなされている	テレビ、ソファ、タンス、座イス、家で使い慣れた小物入れなどが持ち込まれ、本人が居心地良く過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、通路には手すりを取り付けられ、自力歩行が安全にできるようになっている		

**V アウトカム項目**

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 グループホーム あかね 1ユニット

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホーム あかね 1ユニット

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない